

そうか!やってみよう

クラゲで遊ぼう

社会福祉法人謝徳会 るんびに一保育園（愛知県岡崎市）[5歳児]

<事前の様子> 昼食のデザート用スプーンの袋が顔に付いたことをきっかけに、静電気への興味が深まり、静電気を試したり探したり作ったりする。静電気の力が違ったり静電気がなくなったりすることもわかってきて、確かめたり取り入れて遊びを創り出したりするようになる。電気クラゲの遊び方を知り、試すが成功しない。

事例1 パワーが違う!!

部屋にある様々な物を使って摩擦を起こし、電気クラゲのビニール紐を使って静電気のパワーの違いを比べる遊びを考え出す。

A子「この紐10本あるから、1本上がると1点で、沢山上がった方が勝ちね」

B男「じゃあ僕はこの、ままごとの布団」

A子「う〜ん…1点。次、私はぬいぐるみ」 B男「そうだなあ…2点」

C男「僕のハンカチは？」 A子「えっと、2点」

D子「私は、お手玉だよ」 C男「あっ、3点」

B男「僕もお手玉なんだけど…10点！」 C男「えっ! 10点。何で？」

A子「もう1回やってみて、擦り方が違うとか」

D子「さっきより多くやったけど、やっぱり3点」

B男「僕の、さっきよりパワーが違う。なんか凄いよ。先生! 大変! お手玉なのに、パワーが全然違う」



【やったあ〜! 10点だ!】

<電気クラゲの遊びから発展した表現遊び>

事例2 クラゲ作り（製作遊び）



「クラゲの足って何本だけ?」「どんな模様にしようかな」と、実際のクラゲを思い出しながらクラゲ作りをする。自分の好きな模様を描き、個性豊かな作品ができる。

事例3 クラゲで遊ぼう

H児「こうやってユラユラするの?」

I児「そうそう、クラゲって骨ないんだよね」

H児「だからフワフワなのかなあ」

I児「なんかかわいいね」

J児「でもしちゃんが、海でクラゲに刺されたんだって。腕が真っ赤に腫れてたよ」

K児「え〜、クラゲってかわいいだけじゃないんだね」



事例4 電気クラゲで遊ぼう

子どもたちの「やってみたい」「どうなるか知りたい」という思いが高まり、静電気博士からいろいろな話を聞いたり実験を観たりする。その後「電気クラゲを成功させたい」という気持ちがさらに高くなり、「今度はできそうな気がするよ!」と再び自分たちで挑戦する。

L児「あれっ、どうして“フワッ”ってしないんだろう?」と風船に手を近づける。

N児「このマフラーがやっぱり駄目なんじゃない? 静電気博士が使ってたのは違うマフラーだよ」

O児「これならいいかな?」 I児「これならできそうだね」

M児「やっぱりできないよ〜」

L児「あんまりクラゲを触っちゃいけないんじゃない?」

M児「ちゃんとプラスチックの板の上で擦らないと駄目だよ」

L児「沢山擦らないと」 N児「もう1回やってみる」

M児「うわあ〜!“フワフワ”浮いてるよ! 凄い!」



ポイント

静電気への興味が深まり“電気クラゲ”に挑戦して試行錯誤したことで、「作った電気クラゲの足が浮かぶ本数により静電気のパワーの違いに気付く遊び」になったり「クラゲのイメージから製作遊び」をしたりしています。こうして、個別に興味をもった遊びや表現する遊びを楽しむことで素材経験や考えが深まり、再び当初の目的の電気クラゲに挑戦をしています。協力して実現しようとする協同的な遊びをする中で、細かな工夫や考えを出し合う表現力の育ちが伝わってきます。